

新しい会津地鶏の産肉能力

福島県農業総合センター 畜産研究所養鶏分場

1 部門名

畜産 - 鶏 - 育種・選抜、品質・食味

2 担当者

佐藤妙子・大西彩香・宮野英喜・佐藤茂次

3 要旨

県産銘柄鶏「会津地鶏」の雄系種鶏である大型会津地鶏は、造成開始から21年が経過し、近交退化が懸念されているため、後継系統の新大型会津地鶏を造成している。雄系種鶏の新旧交代が可能か検討するため、雄系種鶏「現大型会津地鶏」と「新大型会津地鶏」を用いて作出した実用鶏「現会津地鶏」と「新会津地鶏」の産肉能力を比較した。

- (1) 強健性: 現新会津地鶏雄雌で、育成率は98.8%~100%と同等であった。
- (2) 増体性: 120日齢体重は、雄で現新ともに3.2 kg、雌で現新ともに2.3 kgと同等であった。
- (3) 産肉性: 現会津地鶏に比較して新会津地鶏で、正肉(モモ肉とムネ肉)割合は、雄で同等の結果となったが、雌でやや下回る結果となった(表1)。
- (4) 飼料効率: 正肉1 kg生産に必要な飼料費は、雄で同等(483~528円)であったが、雌で現会津地鶏雌が595~614円であったのに対し、新会津地鶏雌は600~682円と上回った(飼料費は、60円/kgで計算)。
- (5) 肉質成績: 現新会津地鶏雄雌で、水分含量、粗脂肪含量、加熱損失、破断応力、色差、官能評価結果は、ほぼ同等の結果となった。モモ肉中脂肪酸含量において、リノール酸等のn6系脂肪酸とα-リノレン酸等のn3系脂肪酸含量との比であるn6/n3比は、現会津地鶏に比較して新会津地鶏では、雄雌ともにすべての出荷日齢で低く良好であった(図1)。
- (6) 以上の結果より、現会津地鶏に比較して、新会津地鶏は、雌で産卵性能が高いことから産肉および飼料効率が劣る結果となったため、増体性の改良がさらに必要である。モモ肉中脂肪酸含量においては、日本人の脂肪酸摂取目標はn6/n3比を下げる方向であることから、現会津地鶏肉に比較して新会津地鶏肉は、摂取目標に沿うn6/n3比であった。

表1 解体成績

	100日齢雄		111日齢雄		120日齢雄	
	現会津地鶏	新会津地鶏	現会津地鶏	新会津地鶏	現会津地鶏	新会津地鶏
モモ肉割合	20.7 ± 0.8	21.0 ± 1.1	21.8 ± 0.7	22.2 ± 0.7	22.4 ± 0.6	22.5 ± 0.7
ムネ肉割合	12.4 ± 0.8	12.5 ± 1.2	12.0 ± 0.5	12.2 ± 0.5	12.7 ± 0.6	12.7 ± 0.6
正肉割合	33.1 ± 1.2	33.5 ± 1.9	33.8 ± 0.9	34.4 ± 0.7	35.1 ± 1.0	35.2 ± 0.8

	120日齢雌		132日齢雌		142日齢雌	
	現会津地鶏	新会津地鶏	現会津地鶏	新会津地鶏	現会津地鶏	新会津地鶏
モモ肉割合	19.9 ± 0.6	19.5 ± 1.0	20.1 ± 1.2	20.3 ± 1.0	20.3 ± 1.0 ^a	19.3 ± 0.9 ^b
ムネ肉割合	14.5 ± 0.8	13.8 ± 0.6 ^b	14.8 ± 1.1	14.6 ± 0.8	14.5 ± 0.7	14.2 ± 1.0
正肉割合	34.4 ± 1.0 ^a	33.2 ± 1.4 ^b	35.0 ± 1.9	34.9 ± 1.7	34.8 ± 1.5	33.5 ± 1.8

(単位: % 平均値 ± 標準偏差)

同日齢、同性別内異符号間に有意差あり(P<0.05)

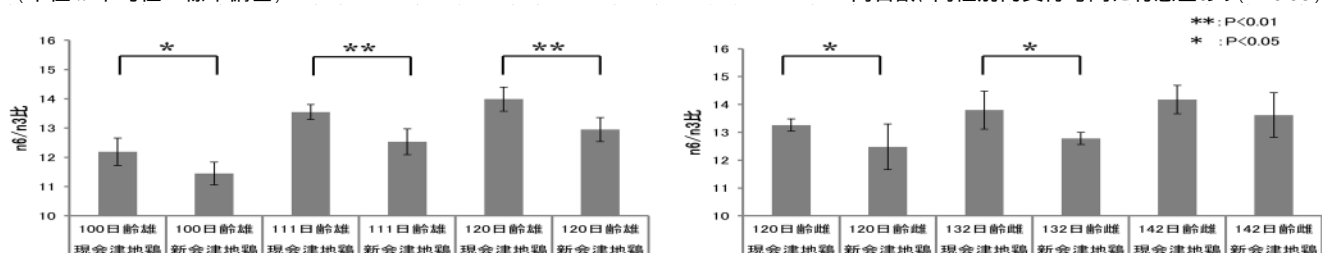


図1 モモ肉中脂肪酸含量比(n6/n3比)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度~24年度
- (2) 研究課題名 実用鶏の基本能力調査 ア 会津地鶏
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度~24年度センター試験成績概要